

「視覚障害者情報提供施設でのサービス事例」

2008年

障害者サービス担当職員向け講座 関西

日本ライトハウス盲人情報文化センター

読者サービス係 西村安彦

1. 日本ライトハウス盲人情報文化センターでの貸出しサービス

<歴史>

- ・大正11年 創始者の岩橋武夫が点字図書製作開始、昭和7年点字図書貸出、
- ・昭和10年 阿倍野に「ライトハウス」を建設。

(東京で、昭和15年日本点字図書館が建設。その後、北海点字図書館が建設)

- ・昭和23年 阿倍野から放出、そして肥後橋。現在は、日本橋。

(平成21年に肥後橋に盲人情報文化センターの新館ができる予定)

放出に本部とリハビリテーションセンター、東大阪市に点字出版所、千早赤坂村に盲導犬訓練所がある。(視覚障害の方の自立と社会参加を応援する総合福祉施設)

大阪府下では、日本ライトハウス以外に、大阪府盲人福祉センター図書館、早川福祉会館点字図書館、堺市立点字図書館、の3館がある。

- ・約500名のボランティアによって支えられ、点字図書、録音図書の製作、貸出し、返却作業をおこなっている。

<資料の種類>

- ・点字、カセットテープ、デジタイズ、CD図書、FD図書など。
- ・映画の音声ガイドCDとDVDの貸出サービス

<利用登録>

- ・大阪府下在住在勤が条件。
- ・電話で利用登録可能。

<貸出から返却の流れ>

毎月末に利用者に新刊案内「読書」を送付。火曜から土曜まで開館。

午前中、返却作業、午後、発送準備作業。

(来館は少なく、電話、手紙、メール、FAX、などで申し込み、郵送貸出し)

読者サービス係ホームページ <http://www.iccb.jp/book/>

日本ライトハウス盲人情報文化センターホームページ <http://www.iccb.jp/>

2. 相互貸借およびネットワーク その他

<ナイーブネットでの検索、オンラインリクエスト>

自館にないものは、他館から取り寄せて、利用者に提供。

- ・プライベートサービス(有料)と対面朗読

ナイーブネットホームページ <https://www.naiiv.gr.jp/>

3. 録音図書のデジタイ化と音声配信

- ・カセット図書製作は2009年3月で終了し、同年4月からすべてデジタイ化。
ただし、所蔵のテープ図書は、デジタル化が済むまで、貸出しは続ける。
- ・日本点字図書館は、2011年でテープ図書貸出し終了。
- ・名古屋ライトハウス2008年3月でテープ図書の製作終了（所蔵分の貸出しは、続行）。
- ・「日盲連が利用者にアンケート調査 カセットテープ、7割が今後も必要」カセット利用者への対応をどうするのか？
- ・びぶりおネットでの音声配信（ストリーミング）有料サービス。携帯電話らくらくホンでのモバイル版。

当初、日本点字図書館と日本ライトハウスのデジタイ図書で著者に許諾をとれたもののみ、データアップしていたが、2007年秋の著作権法改正により、許諾なしで、音声配信できるようになった。

他の館からのデータアップもあり、一挙に配信数が倍増し、登録者も増えている。

びぶりおネットホームページ <http://daisy.nittento.jp/>

びぶりおネット（パソコン版&モバイル版）西日本在住者からの申し込み受付中